



www.a-crafts.co.jp

issue 3

見つけよう

均質化されていない住まい
あたらしい都市生活のかたち

ACB

Arts&Crafts
Book

非郊外
非タワーマンション

ACB

Arts & Crafts
Book

issue 3

index

家庭訪問 | 大阪市西区I邸

築29年のマンションをリノベーション

P1

ニッポンの「住」

都心は誰のもの?自転車で占拠する御堂筋

文 | 中谷ノボル

P4

AC不動産

他にはない不動産あります

P6

「街は骨折しない」

photo & column 文・写真 | 辺口芳典

P8

建築士ってどんな人?

special

P10

まだがんばっています

リノベーション現場で生き残ったモノたち「ビル」

P12

表紙写真

今号の表紙は「建物が持つ力強さと説得力」
千日前のレジャーシティ『味園ビル』での撮影です
フスマと敷居と赤いカーペットの組合せ
まさに味がある建物でした

アートアンドクラフトのお客さまのお住まいを紹介します

家庭訪問



「所有する人が、その人自身を表現しやすいようにアレンジを加えられるというのが中古品の醍醐味だと思います。」



大阪市西区I邸

大阪市西区分譲マンション/専有面積約66m²/家族構成 夫婦+犬 物件購入約1500万円+リノベーション工事約700万円 物件購入の決め手は「公園が見渡せるロケーションでほぼ即決」

アートアンドクラフト(以下AC): お仕事では古着を扱っておられます、中古品の価値って何でしょう?

Iさん(以下I): 中古と言っても様々ですが、簡単に申しますと「今には無い物」。どこかしら懐かしさを感じさせる焼き直し的な物も多いですが、やはり昔に作られた物の方が「リアル」。「今には無いリアルな物」として中古品をとらえています。またある程度の年数経過を経て残ったことも重要で、年数経過の満たない物=ゴミという扱いもあります。

AC: 建築物でも同じですねえ!

I: 欧米では百年を超える住まいはざらに存在して、アメリカの知人宅にしても「これが百年超えてるのか」と驚かされます。でもその作りは、見せかけではない実用的美意識として味がある雰囲気です。

AC: ところでご自身も以前大工職人の経験があるそうですが、一部をセルフで工事をなさっていかがでしたか?

I: やはり職人って言うのは腕もそうですがまずは「道具ありき」の話です。自分がやる際は、比較的軽道具で済ませられる範囲内で「これぐらいやつたらなんとか出来るやろう」といった箇所を念入りに施工法を調べて取り組みました。ある程度知識があった為に見よう見まねで出来た事です。

AC: ここは本町にも近く、ほんとうに「都心暮らし」ですよね。

I: 夫婦共々根っからの都会っ子で、個人的に一時期は田舎暮らしも憧れましたが正直言って一週間が限界でしょうか。簡単に自転車で

何処でも行けるというのが最大の魅力ですね。ここ長らく使用していなかった市バスも使い勝手があるので利用しています。

AC: 自己紹介と読者にメッセージをば!

I: はじめまして『ミスター・モンド』です。
注) Iさん(38)が新町で経営する古着店です

人間それぞれのライフ・スタイルがあるように住居に関しても十人十色。また「ローマは1日にして成らず」とありますように、我が家も2年経ちますが未だに一部屋は手つかずで物置部屋と化しています。

とまあ、そんな中途半端さも「中古」の良さでしょうが、大事なのは所有する人が、その人自身を表現しやすいようにアレンジを加えられるというのが中古品の醍醐味だと思います。

AC: ありがとうございました。

設計デザイン・工事監理
木村久美子/アートアンドクラフト



固定概念を持たず、転ばぬ先の杖とか石橋をたたいて渡る的なコトをごちゃごちゃ迷わず、スッキリと今の暮らしをシンプルに考える。

あとは状況に合わせて自分達でしなやかにそしてスマートに対応。なかなか出来そうで出来ない選択を見事に格好よくしてくださいました。柔軟な考え方で都市に住むと、より一層暮らしが楽しく感じられそうですね!

コーディネート
岡崎麗/アートアンドクラフト



街に暮らす人の日常はおもしろいほどに多彩で、その数だけ多様な住まいがあついいと思うんです。自分たちに必要かどうかの選別が気持ちよいほど明確だったこの部屋は、そつがない。土足生活をはじめ、型にはまらない発想に、こちらがとても楽しませてもらいました。

ニッポンの「住」

衣食住の衣と食では
世界のモードをリードする日本
でも、住の業界ではヘンな部分で
突出している気がします…

文 | 中谷ノボル

003

都心は誰のもの？ 自転車で占拠する 御堂筋

欧米の都市に比べ、今も日本では街の中心部に暮らす人が少ない。NYのマンハッタンと東京の中心4区はほぼ同じ面積だが、人口は東京が3分の1ほどだというし、大阪でも、昼間は人で溢れる中央区が、実は郊外の豊中市や吹田市より人口密度が低いというからびっくりだ。昭和の初期に阪神や阪急が郊外へ向けて線路を敷いて以来、大阪の都心部からは何十年も人々が流出し続けた。極めつけはバブル時代。東京や大阪では都心部の家賃や地価がありえないくらい高騰し、街なかに暮らしたい人までが、やむなく郊外へ出て行った。『ドーナツ化現象』というやつだ。この間、国は税制で後押ししたし、住宅業界も大儲けした。

ところが、今世紀に入って状況は一変する。今度は行政も学者も躍起になって「都心居住を促進しよう！」と呼びかけているのだ。新聞でも『都心回帰現象』なんて書かれている。いったいどうなってるの？ なぜ都心居住なのか？ 専門家たちは、「創造的な人材、つまりクリエイティブ層が暮らしていない街は、これから他の都市間競争でふるい落とされてゆく」と言

う。また、人が住まない都心は治安が悪化する。だから、都心居住の促進が必要なのだというのが通説。ということで、ここ数年は「都心居住を促進しよう」という研究会が、数多く開催されるようになった。

この手の研究会に出席するメンバーは、都市計画系部局の行政マンと大学の研究者、そして企業のエリートたち。みんな偉い人ばかりで、ほとんどが男性。そして、ものの見事に、大阪の都心部には住んでいない。阪神間や北摂に暮らしているのだ。聞くと「いやあ、妻が反対するんですね」と、都心に住まない理由を配偶者の言葉で語る。都心には緑が少なく、治安や教育環境で不安があるらしい。要は、今のままの都心では住みたくない。居住地としてもっと魅力ある街にすべき。それを考えていきましょう。というのが研究会の趣旨となる。

そんな会に呼ばれて意見を求められることがあるのだが、どうも議論がかみ合わない。というのもこっちは、すでにご機嫌さんで都心に暮らしており、十分に魅力があると思ってる。以前に郊外で人気の住宅地に暮らしたことがあるが、そこより住み良いと本心から思う。気に入っている点を挙げてみよう。まず通勤時間が短いこと。次にメシが旨くて店選びに困らない。他にも、飲んだあとミナミからタクシー一千円ほどで帰られる。梅田界隈への買物は自転車でOK。映画は観客が少な



いレイストローへ。病気しても高度な医療がバッチリ。大阪城公園や靄公園などけっこう大きな緑地がある。アートや音楽のイベントがいっぱい。おもしろいヤツがたくさん住んでいてすぐ会える。などなど。彼らが不安視する治安や教育環境もそう悪くない、むしろ郊外の夜道や学校の方がアブないと考えているし、郊外の緑は中途半端で嫌いだ。ホンキで自然に触れたいときはド田舎まで行く。

あえて都心居住の不満を言うならば、「自転車で走りにくい！」こと。街が自転車向きにつくられているとは到底思えないのだ。ここではたと気付いた！ そもそものはず、先の研究会に限らず、都心部のマスター・プランづくりに関わる偉いさんたちの多くは、そこに暮らしていない人ばかり。街なかで自転車に乗るヤツなんていないのである。これが大問題だ。たかが自転車というなれか。一時が万事で、コンサートが始まる時間は、郊外の住宅地の最終バスから逆算されて決まるし、都心の道路工事は夜間や休日にされるので、住民が騒音や振動を我慢させられている。ぜんぶ、都心に暮らしていない人たちのスタンスで物事が決められてゆくのだ。

日本より都心居住者の権利が強いヨーロッパの都市では、すでに自転車を交通の中心に据えたまちづくりが常識になりつつある。中心部への車の乗り入れ規制や、バイク専用レーンの整備などが各地で進む。昨年、度肝を



抜かれたのは、フランスの『ヴェリブ』。パリ市が24時間無休の貸し自転車屋を始めたのだ。なんと1500箇所で2万台ものスケール！ けっして住民の都合だけを優先したのではなく、観光促進や環境問題をも考えての策だ。

ニワトリが先かタマゴが先か。どうすれば郊外の人が大阪都心に住みたくなるかを考える前に、すでに都心に暮らす人をより満足させることをするべきだ。結果的に、それが都心居住を促進すると考える。が、そういう都市の方針を決める大切な場に、いつも都心居住者はいない。うーん、となればデモで訴えるか。御堂筋を「一車線は自転車専用レーンにしよう！」とか叫びながら、数千人規模の自転車で占拠してみてはどうだろう。そういうえばもう何年も前、この手のパレードを夜のパリで見たことがある。物事は一朝一夕では進まない。そうか、あれがヴェリブの伏線だったのか。都心居住者よ！さあ立ち上がりえ～

郊外撤退と市街地再生



中谷ノボル

人口減少インセンティブで

1964年 大阪生まれ
建築家（アートアンドグラフト代表）
長屋再生からキャビンピングカー暮らしまで、
自ら多様な住まいの方を実践し続けている
自称「住まいの求道者」 趣味は世界の水辺を旅すること



売買

地下室のあるちいさなビル

東横堀川沿いの河川敷公園に面し、木々の緑がのぞめる都心のビルです



販売価格／**2,580万円**

所在／大阪市中央区瓦町

交通／地下鉄堺筋線・中央線「堺筋本町駅」徒歩5分

土地面積／26.44m² 延床面積／64.63m²

構造／鉄筋コンクリート・コンクリートブロック

・木造瓦葺 土上2階、地下1階

建ぺい率／80% 容積率／600%

接道条件／西側約7.8m道路に約3.4m接する

用途地域／商業地域

築年数／昭和34年12月

取引様態／仲介

備考／ローンはご相談ください



賃貸

意外に少ない広めの1LDK 賃貸

ワンルームでは手狭になってきた1人暮らし上級者向け



賃料／**85,000円**

所在／大阪市福島区玉川

交通／地下鉄「玉川」駅徒歩6分

JR東西線「大阪天満宮」駅徒歩11分

JR東西線「天満」駅徒歩9分

専有面積／62.18m²

バルコニー面積／8.12m²

構造／鉄骨鉄筋コンクリート造11階建て

所在階／10階部分

管理費／11,190円

修繕維持積立金／9,080円

取引様態／仲介

備考／全面リノベーション済物件です



「街は骨折しない」

「パノラマでもジオラマでもない実感。ご近所にある絶景。不意に解体される物として息づくマテリアル、ビルディング。均一の外にある建物。感傷も欲望も飲み込んで建っている。消したり灯されたりして、僕たちの体温を反響させながら落ち着いた響きを持って建っている。それは肯定的な存在だと思う。少しの仮眠でもとっているみたいに適切で無防備に建っている。パノラマでもジオラマでもない距離感。手を伸ばしさえすれば届くところに僕たちは絶景を持っている」

文・写真／辺口芳典

大阪生まれ。
2000年ウェイストランド誌にて
文筆家としてデビュー。
2006年キヤノン写真新世紀優秀賞受賞。
文筆業のほか、写真家としても活動。
生活の中にある言葉や街自体が
発散している違和感の面白さ、
質感の強さを
切り取って顕著に提示する。





池田知余子 いけだちよこ

【株式会社安井建築設計事務所】
※大規模な設計事務所に勤務

A1 実家のボロな長屋で、小さいころからいつもここに窓があつたらもっとマシな家になるのに…」とか「ここに階段つけて、屋根裏に部屋を作れたらもっと物が置けるのに…」とか一人で考えて遊んでいた。そんな感じで、気づいたら大学の建築学科に入学、気づいたら設計事務所に入っていた。A2 自分が頭に描いていた空間が、そのまま実際にできあがった時。お腹の中から嬉しさが込み上げてくる。A3 労働時間が異常に長いこと。A4 「まあ、これでいいや」と思わず、納得いくまで考えること。A5 北国につくった、丸い形のかわいい建物 A6 料理人！



山田裕之 やまだひろゆき

【プライムワークス一級建築士事務所】
※個人経営の設計事務所

A1 小さい頃からものを造る仕事に就こうと考えていました。具体的に思ったのは中学生の時に家の建て替えのプロセスを見て。A2 完成した建物がクライアントに喜んでもらえたとき。A3 設計者に対する評価が一般的に低くなっているように思われること。無理難題を押しつけるクライアント。一緒にあって良いものを造ろうという意識が低く、設計側の責任を大とする傾向にある。A4 専門の見地を一旦離れ、素人の発想からも検討してみる。A5 北欧風の家 A6 ミュージシャン



枇杷健一 びわけんいち

【アートアンドクラフト】
※同社の設計部門長

A1 梁である父の影響が大きい。自然に建築の道に進んでいた。A2 自分の仕事が役立った瞬間。A3 「先生！」と言われた時。A4 最初から「できません」と言わないこと。A5 飲食店ビル1棟全てをオフィスビルに転用した物件。A6 大工か映画監督。

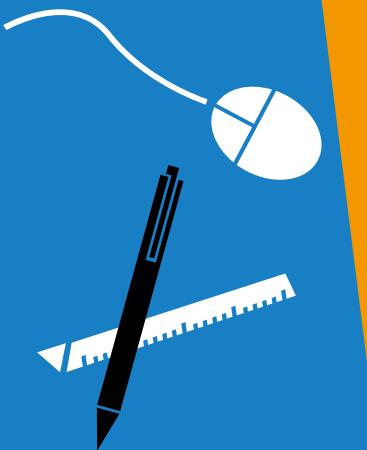
建築士 ってどんな人？

医師よりも多い30万人ほどの一級建築士が国内にはいるらしい。医者には会つても、建築士なんて見たこともないって人も多いはず。姉妹問題以降、何かと話題の建築士ですが、さて、建築士ってどんな人？

「建築士に会つて聞いてきました」特集です。

そもそも、1級建築士とは？

- 昭和25年に制定された建築士法による国家資格
- 建物の設計と工事監理をする技術者
- 平成19年の合格者 3705人、合格率は8%（狹き門！）
- 合格者の平均年齢 31歳（まず受験にキャリアが必要）
- 他に、2級建築士と木造建築士の資格がある



Q 1. 建築士に何故なろう？

Q 2. 嬉しい瞬間

Q 3. イヤなこと

Q 4. プロとしての心得

Q 5. 代表作

Q 6. 違う仕事をするなら

意外な建築士資格者

- 1級 稲川淳二 小田和正
田中角栄（故人）
- 2級 アントキの猪木（お笑い芸人）



上田智晴 うえだともはる

【有限会社上田智晴アーキテクト】
※個人経営の設計事務所

A1 漠然と小学生の頃から考えていた。おじいちゃんが、建築関係者でもないのに自分の家を増改築していて面白そうだなあと子供ながらに思っていた。A2 クライアントに引き渡すまでは、ずっと嬉しい。クライアントに引き渡すと、逆に嫌になる。A3 上記、うまく利用されれば嬉しいが、ほとんどそういうケースは無いので。A4 常に挑戦し続ける事 A5 代表作などと言えるものがあれば、もうおしまい。強く印象に残っているのは、ガレット南堀江（リノベーション）A6 F1 レーサーか小説家



一森典子 いちもりのりこ

【アートアンドクラフト】
※同社にフリーランサーとして所属

A1 姉が建築系専門学校に入学し、もって帰ってきた道具に感動。ちょうどその時、今井美紀が素敵なインテリアコーディネーター役でドラマ出演。これで決まった！ A2 仕事が来たとき。デザインの神様が超特急で降ってきた時。（具体的な提案が一気にひらめいた時）お客様に喜んでもらうのは仕事なので必須ですが、関わったスタッフに褒めてもらおうとなお嬉しい。職人さんとあ・うんの呼吸で現場が進んでいく時。A3 仕事がずっとない時。利己主義な人に理不尽な要求をされた時。（(ピッこい人間に遭遇した時) A4 一人で出来ると思うな！（建築はチームワークが大事！）爆発的なパワーを操作するべし。自分の気持ちを伝えることに妥協するな！ A5 恐縮ですがココ10年の全部です。A6 BARのママ

編集部の感想

ホント、お仕事に真面目に向き合っている人はかりで、いさか感動しました。
違う仕事をするなら「ミュージシャン」や「料理人」など、根っからのエンターテイナーでありクリエイターなのだとも思った次第。余談ですが、登場者全員の名前に「田」と「一」がある！

まだがんばってます

建物の内部を解体して再生するリノベーション
その現場で生き残ったモノたちが語ります

先日スカウトされたんです。48年生きててももちろん初めてですよ。ちょっと疲れて道端でぼんやり立ってたら、話しかけて来る人がいたので道でも聞かれるのかと思ったんですけどね。なんでも「熟年建物」とかいう冊子が出るらしくて、それも表紙モデルとか。悪い人じやなさそうでしたし了解したんですけど、その場で撮るっていうんですよ。ええ、本当に普段の格好ですよ。そうです、今日のような(笑)普通の。どうせならこんなくたびれたタイルじやなくて新しくしたかったし、散髪も行きたかったんですけど、、、だから出来た冊子を頂いたのですが、恥ずかしくて家族には見せてないんですよ。嫁さんには怒られそうですね。

会社?ああ、会社にはバレたんです。無料の冊子だったんで誰かが手に入れたらしい。総務からは呼び出されたんですが、別にモデル代金も受け取ってないですし、私だけでなく長らく勤める会社のことも好意的に書いてくれたのでお咎めなしで。評判ですか?いやあの子とかはちょっと誉めてくれますけどね。悪い気はしませんけど「味がありますよね~」とか急に言われても正直分からんですね。

あと気になるのは隣の課の同期が冷たくなった気がするんです。ちょいワルおやじとかって言いますよね、ああいう感じで見た目も光沢のあるアルミパネルとか黒っぽい高そうな石とかでお金をかけて若く見えるやつなんんですけど。ビール券をお礼ということで受け取ってしまったのですが、バレているんでしょうかね、それくらいいいですよね?(談)

'50~'70年代のビル

空室増加の原因は老朽化にある!とばかりに、昭和のビル・アパートが賃貸市場で苦戦している。ビルの若返り工事は街を歩けばいたるところを目にする光景だ。しかしそんな中で一部ではあるが静かな人気を呼んでいる物件は、皮肉にも大規模なリフォーム工事をせずに'50年~'70年代の面影を色濃く残したビルである。使い込まれた石の階段・色むらのある釉薬タイル・木製の窓枠・手描きの案内板。若作りをせずに自然に年をとったことの無欲の勝利ともいえ興味深い。



ACB
Arts&Crafts Book

issue 3

後記

第3号は都心の暮らしどをフィーチャーしました。アートアンドクラフトとしては今さらの『都心居住』特集なのですが、タワーマンションだけが都心居住の代名詞になりそうな風潮に異議申し立てしたい気分なのです。

古ビルや中古マンション、そして長屋や商店の2階など、「あっ、こんなところにも人が暮らしているんや!」というのが都心のおもしろさ。リアルな暮らしがもっと増えて欲しいものです。

もうひとつ、私たちが注目しているのが、1950~1970年代に建てられた何気ないビル。名付けてビンテージビル。アンティークでもなくレトロでもない。でも何かが気にかかる。経済成長期に建てられたそんなビルたちには、今の建物にはない『作り手の勢い』を感じます。今後、その魅力を紹介していきますので、どうぞ期待ください。

発行日／2008年10月10日
発行人／中谷ノボル Arts&Crafts
編集／植田香・岡崎麗
表紙写真／辻口芳典
P1-P2 写真／榎木直太
P12 清水奈緒
デザイン／河村岳志 alt.design associates

制作・発行／

Arts&Crafts

株式会社アートアンドクラフト
大阪市北区中之島 3-6-32 ダイビル1階
TEL.06-6443-1350
営業時間 10:00~18:00 水日祝休

一級建築士事務所 大阪府知事(イ) 第21250号
建設業免許 大阪府知事(般-18) 第116939号
宅地建物取引業者 大阪府知事(3) 第46315号
大阪市まちづくりコンサルタント登録

Arts&Crafts
ストリノ講座
stock X renovation

はじめの一歩は コチラから!

マンションなど中古不動産(ストック)を買ってリノベーションして暮らしたい。そんなあなたに向けた指南書、「みんなのリノベーション」をまるまる講座にしてしまいました。

次回は11月22日(土)に予定しています。
(参加費無料)

申込み・詳細は、ホームページをご覧ください。

ストリノ講座に参加して、自分だけの住まいを手に入れよう。

www.a-crafts.co.jp

